

富永家系

姓大伴 トモ

家紋

横木 モウカ

傳曰大伴氏其先八高皇產靈尊 フカンミムスビノミコト
 ヨリ出ル尊五世孫天忍日命ト云命 アマカシヒノミコト
 ヨリ四世孫道臣命ト云命ヨリ十世 ミナモトノミコト
 孫大伴連狭手房ト云此子孫諸 タテマツテヒコ
 國ニ分レ住テ諸氏ヲ受ク織田信長 カママス
 家臣瀧川左近將監一益モ大伴氏 カママス
 ニテ家紋木瓜也 是又富永氏

一族也

1230 八面キラが堀られる 西條城作られる (足利義氏)

1270 実相寺作られる

1440 久麻久神社作られる

資良

後鳥羽院 北面左衛門尉
行元後胤

富永 五郎左衛門

士 ツカフ 足利將軍義満

資良

後鳥羽院北面左衛門尉
行元後胤

富永五郎左衛門

仕_{ツカ}足利將軍義滿

行康

富永豊前守

仕_ニ足利將軍義教

1427
1
1441

資正

富永彈正

仕_ニ吉良義信

正安

富永五郎

仕_ニ吉良義_{ヨシ}光_{タカ}修理大夫

1527
伊文神社本殿
作られ

忠安

富永備前守

作られ

仕 吉良義光

忠安

富永備前守

右京大夫

1560 西条城
一西尾城となる

領三州設樂郡妻岡州安

祥城主松平出雲守長親

女後住幡豆郡鷺箇池邑

此屋鋪

永禄九年八月十日卒ス

號妙高院道善居士

某

三郎五郎

入法華宗門諸國遊學後

歸鷺箇池門關妙滿寺號

永禄三年桶狭間の合戦
生善日奥上人

忠元

富永伴五郎

三州室邑城主領永良貝吹

向湯三邑仕吉良義昭

1560 後奈良天皇

足利義勝
(義輝)

1566

生善日奥上人
永禄三羊桶狭間の合戦

忠元

富永伴五郎

三州室邑城主領永良具吹

駒場三色仕吉良義昭

永禄四年辛酉九月十三日三州

藤浪暇於本多康次郎廣

孝後號豊前守戰討死時二十

五歳也廣孝

其首ヲ得テ法名祥公翁淨安ト

號ス此時忠元所世ス短刀俊光

妙高山妙満寺納ム

西尾町妙満寺所藏

夫当山迦爾跡顯本之目得広宣流布之時

富永右京大夫榮志願而後生善日奥上人

所開基也(日奥上人者右京大夫之弟也)

富永氏者源家之庶流世々領三州設樂

郡富永庄鎧野田邑云々(當時三州者十六

家富永其第一也)吉良治部少輔義之勢

盛大而威各三州之日富永一族属吉良家

之幕下云云富永右京大夫娶三州安祥城主

出雲守松平長親君之女此婦則清康公

之伯母也清康公治兵於尾州之日有故卒

於是乎三州大乱矣此時広忠公幼弱也故

1605
矢作川本流
作られ
古河とわかれ

之賢下公天臣水右京大夫娶三州安祥城主
出雲守松平長親君之女此婦則清康公
之伯母也清康公治兵於尾州之日有故卒
於是乎三州大亂矣此時忠公幼弱也故

君京之妻（長親之女也）愛憐公猶一子

公亦敬之如慈母也大永六歲三月三日伯母
卒諡養壽院殿玉村良久大禪定尼依
廣忠公之遺命而三州平均之後東照神

君草創一字於同州天田村寄附采地使
寺僧典養壽院殿之祭祀也畠永氏

神君之戚族而至其子則神君骨肉之枝葉
也雖然守節重義而不從神君之命字

吉良家之恩義矣永祿四年嫡母永半五郎

於于同州藤原鏡手寺本寺豐後府廣孝力

戰而死（此時半五郎領員福駒場長良之三邑

自而後吉良家漸衰義安奔江州之時右京大夫

亦去野田之口鎧蟄居于同州幡豆郡鵜ヶ池

永祿八年神君于時在于三州因崎之城巡將

于鄉村至鵜ヶ池村聞畠水在此邑而召之以養

壽院殿故也（進席及數刻翌之日使群臣

試射于時右京左遷士之列及臨食所指名處即

中之神君曰老父在吉良家節義不衰今精力剛建

而有當壯之氣也汝有子也不與于我宜過汝

亦從我來爲亡伯母欲見汝也右京涕泣拜謝曰

亡國臣耻入繁榮之門神君願欲賜尺寸之

地經營草屋爲梵場供祖先之香華且祈七子之

冥福也神君感其志喜其言賜寺門之境地及半

地寺門之境內有神君所之弓場也是經營梵宇

號謂妙滿寺使弟生善日與上人檢校寺事當日與遷

亡國臣耻入繁榮之門神君願欲賜尺寸之地經堂草屋爲梵場供祖先之香華且祈七子之冥福也神君感其志喜其言賜寺門之境地及米地寺門之境內有神君所之弓場也是經堂梵宇號謂妙滿寺使弟生善日與上人檢校寺草堂日與遷化性寂日慶法師號受子當山之職也日慶法師氏之庶於流也亦富永氏之庶流也
富永石京大夫卒諡妙高院殿道善居士蓋依諡號謂妙高山元和六年辛之歲本寺下總守俊次君來知西尾城因至下鄉村詣妙滿寺也

三河國幡豆郡寺嶋村不動大通院記之字

不動大通院往昔權輿此所ニシテ寺列ノ事ニ坊アリ天多ヲ宗トシ人王五十六代清和天皇勅願所大通院ハ是其本坊ニシテ門扉高ヲ題レ佛閣殊ニ勝レ殿樓鎮守ハ若宮八幡護法ハ毘沙門天各ニ地ヲ分テ堂社アリ凡東城四辺ノ大觀ナリ難ニ然ト物復星移ノ六坊ニ租稅ニ本坊又隨而裏ハ漸々草堂一宇殘レリ於茲吾力宇淨土門ノ知識證意上人者棋列座天文年中上人斯未テ錫ヲ卓テ此寺ヲ再興ス佛閣其數ニ復セトイヘド正鎮守ハ幡護法毘沙門天ノ兩社地者猶旧來ノゴトヲ和方政ニ此上人ヲ開基トセリ上人智行備リ化益不少道城ニ武將ヲ歸依シスル人多ク茲富永宇右門上人ニ添テ歸依シ稚髪入道シテ各祐王ト改上人ニ隨ニ堂宇造建農資助他ニ異レ依而上人ニ諾ニ代々寺樓越トナリ既ニ富永孫三郎兼五郎忠康志良家ニ屬シ持廣公ニ隨ヒ荒水山ニライテ忠康終ニ討死ス祐王忠長忠康共ニ寺樓越ル故忠康遺骸境内ニ

集リ去名一國寺員ト號于茲祐王嫡孫富永半五郎



ナリ既ニ富永孫三郎才五郎忠康志良家ニ属シ

待廣公ニ隨ヒ荒水山ニヲイテ忠康終ニ討死ス

祐至忠長忠康共ニ当年檀越ニ故忠康道骸境内ニ

華リ法名一閑淨貴ト號干茲祐王嫡孫富永半五郎

忠元 大守義昭公ニ属シ東城ノ城ニ在リルニ

永祿建項義昭敗走之砌比類與リ戰功在テ終ニ

寺嶋藤浪纏手ニ討死セリ其戰場寺ヲ去ル事一町

計也當時累代ノ依爲檀越治乱之存其遺骸

當寺辰光師ト空則引導燒香授与法石居羽澤女

下號時永祿四年辛酉九月十三日ナリ半五良舍弟六左エ門

横須賀ノ郷ニ居住然ルニ將軍家其由アルヲ

以テ居屋浦ヲ賜徒務免許在リ其土地雜役免ト

呼則當時檀越ナリ此頃當寺破壊ニ及バ然ルニ吉良

家隨而富永氏者當山開基ノ檀主ナリ後世不可

疎畧之田向供養不可有懈怠事

慶長四年秋九月

是空判

不動山 六代

寛延二年

元禄二年

元禄七年

正徳三年

寶保元年

延享元年

寶曆四年

宝曆四年

宝曆六年

宝曆九年

宝曆十三年

法号 釋了元位

五月二日

法号 釋淨圓位

三月廿九日

金号 釋屋妙正位

八月八日

法号 釋妙信位

八月廿四日

法名 釋尼妙專位

六月五日

法号 釋屋妙照位

五月八日

法号 釋婉庶位

五月十五日

法号 釋屋妙賢位

五月十六日

法号 釋屋妙關位

二月七日

法号 釋屋妙信位

十月三日

法号 釋屋妙醒位

五月五日

法名 釋教夢

九月廿四日



洪武
一
申

俗名 藤治郎

靜教 俗名六一

法名 釋順海 七月十四日
法名 釋尼常信 六月十四日

釋尼常信 六月十四日

法名
尼如純
九月三日

法名
尼俗名
慈重
俗名
みせ

尼養
俗名
みせ

法名
尼谷
如誠

法名
得證
正月二日亡
芳工(榮)

法名
秀欽
伴次
九月九日

法名
釋正映
一月十八日

俗名忠平

法名 尼妙哲言八月四日

法名 釋厄如誠 七月廿五日

俗名
とも

釋厄知哲言
八月十六日 六分

釋厄妙證
十月廿四日
かい

法名 釋法嚴
十一月五日

俗名岩松

法名

獲信院釋見敬

俗名 力行年七十才

法名
九月廿日

信明院釋厄妙力 九月廿日

俗名いち行年九十五才

明治九年

法名 尼妙誓言八月四日

六月十五日 是る

明治四十四年

法名 釋尼如誠 七月廿五日

俗名 とも

釋尼知誓言 八月十六日 大かえ
釋尼妙證 十月廿四日 かい

大正十二年

法名 釋法嚴 十一月五日

俗名 岩松

昭和七年

法名 獲信院釋見敬 十二月十一日

俗名 力 行年 七十才

昭和五十六年

法名

信明院釋尼妙力 九月廿日

俗名 いち 行年 九十才

平成十四年十二月三十一日 法名 信敬院釋尼妙綱

俗名 った 享年 七十才

平成二十一年八月十七日 法名 淨邦院釋永真

俗名 邦夫 享年 八十才

俗名 邦一